

厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症研究事業)
「新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究」班
分担研究報告書

研究分担者 宮川昭二 国立感染症研究所 国際協力室

研究要旨 海外、特に近隣のアジア各国との連携協力及び同地域の感染症研究機関間との関係構築、更に感染症研究に携わる専門家間の密接な協力は、我が国への新たな感染症の侵入防止、また侵入時の対応において、極めて重要である。新型インフルエンザをはじめ重症熱性血小板減少症候群(SFTS)など、アジア地域の研究機関との連携協力により病原性解析や診断法開発などで大きな成果があげられている。アジア地域各国の感染症研究機関での活動について情報収集を行い、感染研との連携協力体制の推進及び我が国の新興再興感染症対策に役立てた。

A. 研究目的

国立感染症研究所では、中国、韓国等アジア周辺国の感染症研究機関との間で、研究協力に関する覚書を締結し、新興再興感染症などの研究協力、人材育成、情報共有など我が国の感染症対策の推進に役立つよう連携協力体制の構築を進めている。

本研究の目的は、我が国の新興再興感染症対策に資するため、アジア周辺国における感染症研究機関との連携協力を推進する上で必要な情報収集を図るとともに、新興再興感染症対策に役立てるものである。

B. 研究方法

1. 情報収集等

2013年7月にロシア・ウラジオストク市を訪問し、ロシア医科学アカデミー・疫学・微生物学研究所(Research Institute of Epidemiology and Microbiology(RIEM)ほかを訪問し、ロシア・日本での感染症調査研究に関するワークショップに参加した。同研究所等極東地域におけるロシアの感染症対策及び調査研究などの活動について情報収集するとともに、感染研と RIEM との研

究等連携協力について意見交換を行う。

2013年10月にベトナム・ハノイ市を訪問し、国立衛生疫学研究所(National Institute of Hygiene and Epidemiology(NIHE)で開催される「第2回 NIHE-NIID 共同研究報告会」に参加し、ベトナムにおける新興再興感染症等の発生及び研究等の状況について情報収集する。本機会を利用し、感染研及び NIHE との連携協力に関し共同研究事業等の活動などの協議を行う。また、WHOベトナム事務所、NIHEで活動する JICA 技術協力プロジェクト及び長崎大学共同研究事業などについて情報収集を行うとともに関係者と意見交換を行う。

2013年11月に中国・北京市で開催された「第7回日中韓感染症シンポジウム」及び「第2回日中共同研究報告会」に参加し、中国及び韓国における新興再興感染症等の発生及び研究等の状況について情報収集する。本機会を利用し、感染研及び中国CDC、韓国CDCとの連携協力に関し共同研究事業等の活動などの協議を行うとともに連携協力について意見交換を行う。

2013年7月に開催される第34回衛生微生物技術協議会研究会に参加する。また、2014年2

月に大阪府立大学大学院生命環境科学研究科感染症制御学講座を訪問し、インド等アジア地域での感染症研究等における連携・協力について情報収集と行うとともに、意見交換を行う。

2. 国際的な連携

2013年9月に感染研において台湾CDCを招き開催する「第10回日台感染症シンポジウム」において、同シンポジウムの開催を企画調整し、両機関の専門家間での交流を進め感染症調査研究分野での連携協力を進める。また、同シンポジウムの機会を利用し、感染研と台湾CDCとの研究分野における連携協力及び共同研究等について情報収集するとともに関係者との意見交換を行った。

C. 研究結果

1. アジア各国との連携協力

ロシア医科学アカデミー疫学・微生物学研究所(RIEM)及びロシア太平洋医科大学の訪問では、両研究機関の専門家に加え、ロシア医科学アカデミー、ロシア保健省インフルエンザ研究センター、ロシア連邦極東地域ウイルス検査所からの専門家に会い、ウラジオストク等ロシア極東地域でのダニ媒介性脳炎ウイルスやハンタウイルス、エルシア等の感染症発生状況について、RIEM等が行う分子疫学調査及び環境調査などの状況について情報収集出来た。また、ロシア太平洋医科大学ではロシア政府が進める感染症ラボの整備状況を視察し、インフルエンザ研究分野においてWHO指定センターの指定を目指す等情報収集を行った。

2013年11月に開催された第7回日中韓感染症シンポジウムでは、SFTS などのベクター媒介感染症、新型インフルエンザ(H7N9)、多剤耐性結核及び風疹等について参加する機関の専門家から情報収集を行うとともに、中国CDC及び韓国CDCとの間での研究協力及び連携など双方が行う事業等について情報収集を行うことが出来た。

2013年10月に開催されたベトナム NIHE との共同研究発表会では、手足口病、狂犬病、薬剤耐性などでベトナムにおける感染症発生状況及び研究等の状況について情報を得た。また、JICA 等が行う技術協力などにより実験室整備や人材育成など感染症予防対策等への貢献と感染研と NIHE との研究分野での連携協力の相乗的な効果を確認するとともに、WHO ベトナム事務所からこれらの貢献と実績について高く評価することを確認した。

2013年9月に開催された第10回日台感染症シンポジウムでは台湾における新型インフルエンザ等感染症の発生状況、調査研究の状況について情報を得たほか、共同研究など感染研と台湾CDCの連携協力の実績を確認出来た。加えて日台シンポジウムは、2003年から日本と台湾相互に開催され感染研や台湾CDCなど両国の感染症研究等を行う専門家の交流を進め多くの実績を残しており、台湾との窓口機関である交流協会及び駐日台北経済文化代表処から参加する幹部からも両国での感染症予防対策への貢献への高い評価と今後の連携協力の推進への期待が示された。

衛生微生物技術協議会研究会では、国立感染症研究所と地方衛生研究所の既存のネットワークが、国立感染症研究所と各国研究機関との連携協力の推進に役だっていることが確認出来たほか、海外での新興再興感染症に関する情報等が地方衛生研究所での活動にも活用出来ることが認められた。

2. 国際的な評価

共同研究、人材育成及び情報共有等の活動を通じて、国立感染症研究所と各国研究機関との連携協力体制は進展しており、これらの活動及び成果はカウンターパートである各国研究機関のみならず、WHO、米国CDC等の感染症対策機関等から高く評価されており、引き続きアジア地域での感染症対策推進への貢献が期待さ

れていることが確認出来た。

D、E．考察と結論

国立感染症研究所が、国内での感染症対策のため取り組んでいる研究等の成果を海外の研究機関等と共有し、また海外での研究機関との連携や協力を実践することは、感染症対策における国際貢献が図れるのみならず、迅速な事態把握や早期対応などにより我が国への侵入防止や国内での対策構築など早急な対応が図られることとなる。

新たな感染症の発生・流行などに際しては、サーベイランス及びラボ機能のほか情報解析と関係機関間でのコミュニケーションなどが重要であり、各国感染症研究機関との持続的な関係を構築するためには、専門家間での交流などに加え、国立感染症研究所と各国研究機関が公的な関係を構築し定期的な活動を行うことが大切である。

今回の研究では、中国CDC、韓国CDC及び台湾CDCとの長年にわたる連携協力の実績と緊密な関係を再確認出来たことに加え、ベトナムNIHEにおいては、我が国が行う技術協力による成果と感染研との共同研究など連携協力との相乗的な効果を確認することが出来た。

また、ロシア医科学アカデミーREIMとのワークショップ開催により、これまで十分な情報が得られていなかったロシア極東地域での感染症等の状況について情報を得るとともに専門家との関係の構築を行うことが出来た。これにより我が国周辺地域での感染症情報収集等が改善されることが期待される。

F．健康危険情報

特記事項なし

G．研究発表

特記事項なし

H．知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

特許取得

特記事項なし

実用新案登録

特記事項なし

その他

特記事項なし